

令和8年5月15日

第39期第2局竜王戦対局決定について



平素、当大社につきましては、格別なるご高配を賜り誠に有難うございます。
この度、三島市制施行85周年記念事業として第39期竜王戦第2局を当三嶋大社
で開催されることが5月15日発行の読売新聞朝刊紙上で発表されました。
当大社における将棋の対局が行われるのは、長い歴史の中で今回が初めてとなりま
す。
つきましては、ご取材を承りますので、ご案内申し上げます。
よろしくお願い申し上げます。

【対局について】

対局日： 令和8年10月22日（金）・10月23日（木）

会 場： 三嶋大社

【三嶋大社について】

ご祭神について

大山祇命 [おおやまつみのみこと]、
積羽八重事代主神[つみはやえことしろぬしのかみ]、
御二柱の神を総じて三嶋大明神 [みしまだいみょうじん] と奉称しています。
大山祇命は山森農産の守護神、また事代主神は俗に恵比須様とも称され、
福德の神として商・工・漁業者の厚い崇敬をうけます。

ご由緒

創建の時期は不明ですが、三嶋大社の信仰は、
古来伊豆半島・諸島の噴火造島や大きな地震に伴う自然活動を背景に信仰が成立したとされています。
三嶋神は東海随一の神格と考えられ、朝廷の尊崇を受けてきました。平安時代中期「延喜の制」では、「名神大社」に列せられました。
平安時代の末、伊豆に流された源頼朝は深く崇敬し、源氏再興を祈願しました。神助を得てこれが成功すると、社領神宝を寄せ益々崇敬することとなりました。頼朝の妻、北条政子奉納と伝えられる国宝「梅時絵手箱 及び 内容品 一具」は、当時の最高技術を結集させたものとしても有名です。
頼朝旗挙げ成功以来、武門武将の崇敬の社としても広く知られます。
江戸時代、東海道に面し、伊豆地方の玄関口として下田街道の起点に位置する三嶋大明神の称は広く天下に広まっていきました。
その後、明治4年の近代の社格制度では、官幣大社に列せられています。
又、平成12年には、本殿・幣殿・拝殿が国の重要文化財に指定され、
当社の文化的価値の高さも再認識されています。

【会場の社務所について】

当大社の社務所は平成元年に竣工し、専ら神事に関わる事に使用しています。
建物の中で最も格式のある正庁が、竜王戦対局の場として、選定されました。

- 詳細は随時、三島市公式HPなどでお知らせがあります。
- 内容が変更になる場合があります。
- 取材に際しましては、事前連絡をお願い致します。

【主催】

読売新聞・日本将棋連盟

【三嶋大社に関するお問合せ先】

三嶋大社 広報室 鈴木・高松

三島市大宮町2-1-5

TEL：055-975-0172

メール：kouhou@mishimataisha.or.jp